



残されたご家族、
グリーフケアについて

今年も早いもので12月になりました。西東京市を中心とした在宅医療専門機関として開院して2年半になり、先日刊行された『さ』まで自宅で



松原 清二 医師
在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長
総合内科専門医・循環器内科医
・日本循環器学会専門医
・日本内科学会認定医
・認知症サポート医

診てくれるいいお医者さん(週刊朝日ムック)『朝日新聞出版』の発表では、西東京市、練馬区、新座市において一番患者さんの最期まで付き合ひ続ける医療機関であると紹介されました。
高年齢が進むなか、入院を繰り返す医療に疲れてきた患者さんの、「可能な限り自宅まで」という気持ちにお応えしてきています。しかし一方で、残されたご家族とお話しすると、自宅で看取ることが満足された方、やはり最期は入院も提示され、ご自宅で頑張り続けたけれど良かったのかどうか分からない——と自問自答されている方など、さまざまな方を見えます。西原総合教育施設内1階の会議室が会場です。町をあげて、在宅での死と残された家族について考える——大変良い機会だと思っています。

私自身としては、愛する人の死は容易には受け入れられないものだと思っていますし、その死は悲しいもの以外の何物でもないと思っています。ただ、そういった残された人に対し、我々も何かできないかと模索しています。

西東京市西原町地域包

【まつばらホームクリニック】
☎ 042-439-1250
西東京市東町 4-14-18-2F
(訪問中のため不在が多い)
■電話対応：午前 9:00～午後 6:00
■定休日：土日(祝日は診療)
■訪問地域：西東京市、東久留米・新座・練馬の一部

まつばらホームクリニック ↑ 診療相談はこちらから